

令和7年度 築瀬小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
思いやりの心と自ら学び、正しく判断できる力をもった、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
 - ① 自ら学ぶ子（知育）
 - ② 思いやりのある子（徳育）
 - ③ たくましい子（体育）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標に向け、「やなせ魂」の精神のもと、児童と職員の共感、共汗、共歓を大切にし、児童にとって「安心して学べる学校」、教職員にとって「働きたい学校」、保護者及び地域住民が「信頼できる学校」を目指すことにより、達成を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「VUCA」の時代とも言われる状況の中、たくましく生き抜く力の育成を目指し、「教育基本法」「学校教育法」「学習指導要領」並びに「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「令和7年度指導の重点」の趣旨や内容を踏まえた上で、本校の学校評価や各種調査の結果を参考に、以下の方針のもと学校経営の充実に努める。

- (1) 教育活動の質の一層の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントにより学習効果の最大化を図るとともに、本年度の重点目標等について学校と保護者、地域住民が共有できるようにしながら地域の教育力を最大限に活用して特色ある教育活動を推進する。
- (2) 「自ら学ぶ子」:学ぶ意欲を高めながら、知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習活動の展開に努める。
- (3) 「思いやりのある子」:心豊かで思いやりのある子を育成するため、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心などをはぐくむ豊かな体験活動と全教育活動を通した道徳教育を推進する。
- (4) 「たくましい子」:健やかでたくましい子を育成するため、健康で安全な生活ができる基本的な生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- (5) 「信頼される学校宣言」のもと、全ての教職員が、高い倫理観、人権意識と使命感をもつとともに、真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人に寄り添い、自信と信念をもって誰からも信頼される教職員として職務に励む。
- (6) 教職員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務し、児童と向き合いながら質の高い教育を実践できるよう、教職員の働き方改革の視点に立ち、職場環境改善のための取組を推進する。
- (7) 旭地域学校園小中一貫教育である「地域に愛される旭っ子」の育成を最重点目標として推進するとともに、学校地域協議会との連携強化により地域とともにある学校づくりを推進する。

[旭地域学校園教育ビジョン]

「地域に愛される旭っ子」の育成 ～地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・国、県の法令や指針、市の推進計画、スタンダード、指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- ・社会の変化へ対応できるように、教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用などにより、知識及び技能、思考力・判断力、表現力等、学びに向かう力や人間性等を育成する。
- ・児童や学校経営に関する各種調査結果を、授業や学校経営の改善に生かし、教育活動の見直し、校内外の資源活用など、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営	全教職員が組織力を高めながら活気ある学校づくりに努め、地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進するとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域協議会と一体となって、地域とともにある学校づくりを推進する。
(2) 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら問いを見出し、かかわり合いを通して協働的に学ぶ授業展開の工夫 ○児童が互いに頑張りを認め合い、自己の成長を感じられる振り返りの実践 ○基礎・基本定着のための朝の学習タイムの実施と家庭学習の習慣化 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業コーディネート力をもとにした「問いかけ、考えさせる」授業の実践 ・学力調査等の結果を分析・活用した授業改善
(3) 児童生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感の更なる高揚に向け、児童を「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導の一層の推進 ○進んで元気なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進 ○平常時の児童指導を徹底し、あいさつ、履物そろえ、語先後礼等の基本的な生活習慣や判断力を身に付け、相手を思いやる態度の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の傍らに立ち、児童の声に耳を傾け、児童の思いに寄り添いながら伴走する支援の推進
(4) 健康（体力・保健・食育・安全）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進 ・自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進 ○進んで運動し体力を高めるための、外遊びの奨励や各種頑張りカードの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・心身のたくましさをはぐくむための児童会イベントの実施

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」「児童は、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」</p> <p>⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業の中で、学習のめあての提示を工夫し、児童が進んで学習に取り組めるようにする。 ・児童が相手の考えと比べたり、分かろうとしたりする姿勢で学習に取り組む聴き方の指導を行う。 ・具体的な操作活動をしたり、情報を収集・選択して思考したりする活動を取り入れる。活動の取組の実践を年計に記入し蓄積していく。 ・グループでの話し合いがスムーズに行えるように話型を示す等の工夫をしていく。 ・各種たより等で学校が日常的に取り組んでいる学習指導の様子を家庭・地域にも発信していく。 	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答は、児童が90.2%、保護者が90.2%であった。肯定的回答はいずれも目標を上回っており、昨年度の数値と比較しても上がっている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童が進んで学習に取り組めるような教師による問いかけ習慣化し、資料の提示方法や板書の工夫を行っていく。 ・学習活動に話し合いの場面を効果的に取り入れ、児童同士の学び合いの場を十分に確保していく。 ・授業参観やオープンスクール時には、児童の発表形式だけではなく、普段の授業で行っている児童同士の話し合い活動など、学び合いの様子を公開していく。

A2 児童は、思いやりの心
をもっている。
【数値指標】
全体アンケートの「児童は、
誰に対しても、思いやりの心
をもって優しく接している。」
「児童は、地域住民に、思い
やりの心をもって接してい
る。」
⇒児童、保護者、地域の肯定
的応答率 85%以上

- ・帰りの会等で、友達のよさを認め励
まし合う活動を取り入れることで、
他人を思いやる気持ちを醸成する
ようにする。
- ・「やなぜフェスティバル」などの
縦割り班活動や、「ありがとうの会」
などの行事を通して、友達や地域
の方々への感謝をもち、思いやりの心
の育成を図るため、振り返りの充実
を図る。
- ・登下校中における地域の方々への
感謝を含めた挨拶や態度の指導を
していく。

【達成状況】
・肯定的応答は、児童が 86.4%、保護者
が 96.1%、地域住民が 100%であり、目
標を達成したが、昨年度と比べ児童の肯
定的応答率は下回った。
【次年度の方針】
・次年度も、学級において友達のよさを
認め励まし合う活動を進んで取り入れ
るとともに、一人一人のよさが発揮でき
る児童会活動や学校行事における振り
返りを充実させる。
・各教科や道徳、学級活動等で人権教育
の充実を図り、登下校や放課後など学校
外においても、自他の人権を尊重し、お
互いの個性を認め、他人の気持ちを考
えて行動しようとする児童の意識を高
める。
・登下校中における地域の方々への感
謝を含めた挨拶や態度は継続して指導
をしていく。

A3 児童は、目標に向かっ
てあきらめずに、粘り強
く取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケートの「わたしは、
夢や目標に向かってあきらめ
ずに、粘り強く取り組んでい
る。」
⇒児童、保護者の肯定的応答
率 80%以上

- ・学校行事や児童会活動等にめあて
をもって、最後まであきらめずに取
り組む態度の育成を図るとともに
振り返りの場を効果的に設ける。
- ・学習や運動で、自分の取り組みへ
の継続的な頑張りや伸びが分かる
ように、振り返りカード等の活用を
図る。
- ・低学年では生活科や道徳の授業を
通して、学校や集団生活に慣れるこ
とから始まり、学年が上がるにつれ
て、より具体的に社会性を学ぶ機会
を増やし、将来の目標が持てるよ
うにするなど、キャリア教育を充実さ
せる。
- ・児童の思いに寄り添い、伴走する支
援を推進する。
- ・学校だよりや学校ホームページ等
を活用し児童の継続的な頑張りや
伸びを家庭や地域に発信する。

【達成状況】
肯定的応答は、児童が 86.6%、保護者が
80.4%であった。肯定的応答はどれも
目標を上回っており、昨年度の数値と比
較しても上がっている。
【次年度の方針】
・全教育活動において引き続き、児童の
思いや努力に寄り添い、教職員が伴走し
ながら支援をしていく。
・キャリア教育の更なる充実を図ると
ともに、自ら目標を立てて取り組み、頑
張りや成果を振り返る活動を多く取り
入れていく。また、それらの活動をホ
ムページや学校だより等で保護者にも
伝えるなど、積極的に発信していく。

<p>1- (3) 健康で安全な生活を 実現する力を 育む教育の 推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 健康や安全に気を付けて生活 している。」「児童は、学校行 事や休み時間等において元気 に活動したり、安全に気を付 けて生活したりしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の 肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が健康な生活を意 識し、手洗いやうがいの励行など習 慣化できるよう日々の声かけや委 員会活動と関連した掲示物の工夫 をする。 ・安全面に気を付けて生活できるよ う、登下校の際の安全な歩き方や、 休み時間の過ごし方など学校生活 全体で危険を予測して、自ら危ない 行動をとらない意識を育てる。 ・保護者や地域住民には、引き続き学 校での取組を学校ホームページな どを活用して周知していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.3%、保護者 が 93.2%、地域住民が 100%であり、保護 者や地域住民は目標を達成したが児童 の肯定的回答は目標を達成できなかつ た。昨年度と比較すると児童の肯定的回 答割合は 3 ポイント減少した。保護者の 割合は 7.5 ポイント上昇した。 【次年度の方針】 ・児童は、おおむね健康な生活習慣を意 識した生活を送っている。さらに、児童 一人一人が健康に留意した行動ができ ていることを実感できるよう日々の声 かけや児童の委員会活動を工夫してい く。 ・校内放送の聴き方を統一し、緊急時に 児童が適切に行動できる仕組みを構築 していく。 ・学校での取組を学校ホームページな どを活用して保護者や地域住民に積極 的に発信していく。</p>
<p>1- (4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 互いの良さを生かしながら、 進んで意見を発表したり、協 力したりして、集団での課題 を解決している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答 率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のよさや成長を見取り、教職 員間で見つけた子供のよさを共有 し合い、児童に対し「存在を認める、 努力を褒める、挑戦を励ます。」指 導を推進する。 ・児童の自己存在感、自己肯定感を 高めるために、係活動等で一人一役 を設定するなど、集団の中で自分の 役割をもち、責任を果たせるよう支 援することで、周りの人から認めら れるような指導を行っていく。 ・係・当番活動の振り返りを行い、結 果だけでなく、その過程も評価し児 童の努力や成長の様子を、認め、褒 め、励ましていくようにする。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 86.1%、教職員 が 96.8%であり、いずれも肯定的回答 は目標を上回っていた。 【次年度の方針】 ・引き続き、教職員は児童の「存在を認 め、努力を褒め、挑戦へと励ます」指導 に努め、教職員間で共有する。 ・係・当番活動等で一人一役を設定し、 集団の中で自分の役割をもち、責任を果 たせるよう支援することで、児童の自己 存在感、自己肯定感を高めていく。 ・学校行事や学期の振り返り活動等に おいて、児童のよさや成長に結びつい たがんばりの過程を取り上げ、児童の自信 につながるようにする。</p>
<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 外国語活動（英語）の授業や ALT との交流の際に、英語を 使ってコミュニケーションし ている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答 率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動や英語の授業の中で、A LTや教師、友達とのコミュニケー ションを通して、会話をするための 英語表現に慣れ親しめるようにす る。また、振り返りの際に英語の良 さや自分の成長の様子が実感でき るような工夫をする。 ・挨拶や季節、曜日などの簡単な英単 語を校内に掲示することで、日常的 に英語に触れられるような環境づ くりを行う。 ・授業時間以外に、休み時間を始め 諸活動の中で ALT と積極的にコ ミュニケーションを図る機会を設 けるようにする。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 87.2%、教職員 が 96.8%であった。肯定的回答はいず れも目標を上回っていた。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、授業のみならず、 休み時間を始め諸活動の中で ALT と児 童が積極的にコミュニケーションをと れるような場を設定していく。 ・授業の中で、児童が「英語を使うこと ができた。」「英語でコミュニケーション をとることが楽しい。」と達成感を得ら れるような授業づくりに努めていく。</p>

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 築瀬地区や宇都宮市に係る資料やニュースを掲示するコーナーを設け、地域や宇都宮の良さに気付けるよう環境を整えることで、児童が宇都宮市について興味・関心が高まるよう工夫する。 ・ 保護者や地域に向けて、児童の学習した内容や取り組みを学校だよりや学校ホームページによる広報活動を積極的に発信していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 87.0%、教職員が 93.5%、保護者が 79.5%であった。保護者の肯定的回答は、目標をわずかに下回っているが、昨年度の数値と比較すると上回った。 【次年度の方針】 ・ 社会科や宇都宮学における授業において、積極的に地域人材を活用したり、体験的な学習を取り入れたりするなど、宇都宮の良さに触れられるよう工夫していく。 ・ 保護者や地域住民に向けて、児童の学習した内容や取り組みを学校だよりや学校ホームページにより広報活動したり、授業参観時などに校内に掲示・発信したりする活動を継続する。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室を計画的に利用し調べ学習の際には、図書室を意図的に活用し、課題解決のための本の選択・収集する力を育む。また、司書教諭と連携し、図書委員会のイベント等も実施することで、図書室の利活用を活性化していく。 ・ ICT機器を活用し、調べたことや自分の考えをまとめる際、相互に共有、比較、修正することで、表現力や思考力の向上を図る。 ・ 授業補助としてICT支援員を活用したり、必要に応じて校内研修を行ったりすることで、児童の技能及び教職員のICT機器の活用技術の向上を図る。 ・ 学年だよりや学校ホームページ等を通して、授業や行事などでデジタル機器や図書等を活用している様子など、児童がICT機器を活用している様子を発信していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 85.9%、教職員が 96.8%、保護者が 82.3%であった。保護者の肯定的回答は目標を下回っているが、昨年度の数値と比較すると 0.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ 授業参観やオープンスクールで、ICT機器や図書等を活用した授業を積極的に公開していく。 ・ 図書だよりで、図書委員会のイベントや図書を活用した学習活動の紹介を行い、保護者や地域に発信していく。 ・ 保護者や地域住民へのアンケートや出欠の連絡等にICT機器を積極的に活用するなど、ICT機器の利便性を実感してもらえるようにする。</p>

<p>2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「わたしは、みずやでんきをたいせつにしたり、しょくぶつやどうぶつをたいせつにしたりしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会のペットボトルキャップの回収活動をはじめ、児童会活動を通して、全校体制で環境を大切にしようとする取組や呼びかけを行い、児童の「持続可能な社会」に対する意識を高めていけるようにする。 ・社会科や家庭科、総合的な学習の授業で、環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けての知識の定着を図る。 ・身近な給食指導において食育の視点を生かして、健康や食料の大切さに対する意識を高める。 ・「持続可能な社会」に向けて、児童会活動を中心に学校で行っている環境に配慮した取り組みの周知を行う。 ・学校で行っている環境に配慮した取り組みを学校だよりや学校ホームページで周知し、地域も含め学校全体の関心を高める。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 85.7%、教職員が 93.5%であり、肯定的回答はいずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・節電・節水についての意識を高めるよう、日頃から声掛けをしたり、児童の委員会活動を充実させたりする。 ・各委員会の取組を日頃の学級指導にも生かしていく。 ・社会科や家庭科、生活科や総合的な学習の時間の授業で環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けた知識の定着を図る。 ・身近な給食指導において食育の視点を生かして、食料の大切さや命をいただくことに対する意識を高めていく。</p>
<p>3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童の共通理解を図る場を毎月設け、全職員が児童の実態を把握する。 ・研修等で学んだ指導に関連する情報や資料を互いに提供し合うなどして、特別な支援の在り方についての理解を深める。 ・担任の困り感などに応じて支援委員会を開催し、かがやきルームや日本語教室の活用を図っていく。 ・教材研究を進め、児童一人一人に合った授業支援の在り方を実施するとともに、必要に応じてかがやきルームや日本語指導教室の活用を検討する。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は、100%であり肯定的回答は目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・昨年度に引き続き、支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設けたり、全職員が児童の実態を把握したりする。支援が必要な児童に対しては、個別の支援計画を作成し、よりきめ細かに対応していく。 ・必要に応じて関係機関に相談し、適切な支援のアドバイスを受ける。 ・特別な支援を要する児童のニーズに応じて校内支援委員会を開催し、かがやきルームや日本語指導教室の活用を図っていく。</p>

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」「学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けた取組を発信したり、地域に見守りを依頼したりするなど、地域と連携している。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間での取組を通し、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、年2回の教育相談を実施し、児童のSOSをキャッチし、解決を図る。 ・いじめ根絶集会を児童主体の参加型にし、児童が積極的にいじめに対する意識をもって活動できるよう工夫する。 ・家庭との連携を図り、児童の悩みや小さな変化などをとらえ対応していく。また、保護者との情報共有を密にし、電話での連絡や連絡帳、必要に応じて家庭訪問や来校による面談を行っていく。 ・学級懇談時や各種たより等を通し、学校の取組「いじめのない環境づくり」を発信するとともに、保護者や児童の思いを十分に受け止め、「いじめは許さない」という強い意志をもって指導に当たる。 ・いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、学校での取り組みや活動の様子、児童への指導に関する情報をさくら連絡網や学校ホームページなどを活用して保護者や地域住民へ積極的に発信していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が96.2%、教職員が100%、保護者が83.6%、地域住民が100.0%であった。保護者の肯定的回答は目標を下回っているが、昨年度の数値と比較すると5.2ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、学校での取り組みや活動の様子、児童への指導に関する情報をさくら連絡網や学校ホームページなどを活用して家庭や地域住民へ積極的に発信し、協力を得られるようにしていく。 ・令和7年度の取組を継続していくとともに、家庭との連携を図り、児童の悩みや小さな変化などをとらえ早い段階で対応し未然防止に努めていく。 ・電話での連絡や連絡帳、必要に応じて家庭訪問や来校による面談を行っていくことで、保護者との情報共有を密にしていく。 ・年2回の「いじめゼロ強調月間」では、児童会を中心とした取組を実施し、教職員はいじめアンケートにより状況を把握する。その際、訴えがあった時点で「いじめは起こっている。」との前提のもと早期に状況の詳細を確認する。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童間のよりよい関係づくりのために、Q-Uや教育相談について校内で研修を行い、それらを生かした学級経営を実施する。 ・欠席が続く児童に対して、電話や家庭訪問を行うとともに、関係機関やスクールカウンセラー等とも連携を図り、児童に適したアプローチを継続的に行う。 ・児童が抱える問題について早期発見を心掛け、関係職員で情報を共有するとともに、共通理解を図り学校全体で児童の指導にあたる。 ・保護者や関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを継続的に行っていく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が94.6%、教職員が100.0%、保護者が94.7%であり肯定的回答はいずれも目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・不登校の未然防止や児童が抱える問題の早期発見に努め、関係職員間で情報を共有するとともに、職員全体でもし情報を共有し学校全体で支援していく。 ・保護者や関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを行っていく。 ・教職員を対象に研修を行い、専門性の向上を図る。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の話をよく聞いた り、帰りの会等で児童同士がよさを認め合う場を意図的に設定したり 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が95.7%、教職員が100%、保護者が94.2%、地域が100%であり、肯定的回答はいずれも目標を大</p>

<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」「学校行事等において、様々な立場の児童が、互いを尊重し合って活動を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>して、互いに認め励まし合う集団づくりを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会やなぜフェスティバル、ふれあい活動、ありがとうの会、音楽集会等にて児童が主役となって活躍する場を設定し、達成感や成就感、思いやりの心を育む。思いやりの心の育成につながるよう、全校への目的の発信や振り返りの工夫を試みる。 	<p>大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の話しに耳を傾け、教職員に相談しやすい心理的安全性の確保に努めるとともに、児童同士がお互いに認め合う場を意図的に設定し、居がいのある学級づくりに努める。 ・運動会、やなぜフェスティバル、ふれあい活動、ありがとうの会、音楽集会等、児童が主役となって活躍する場を設定し、達成感や成就感、自己有用感の高揚を図る。 ・児童の活躍やよさ、成長について、引き続き、学校だよりや学校ホームページにより保護者や地域住民等に発信していく。 ・引き続き、教職員は児童の「存在を認め、努力を褒め、挑戦へと励ます」指導に努め、教職員間で共有する。
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を計画的・継続的に実施するとともに、互いの授業を見合い、意見を交換し合いながら、授業力の向上を目指す。 ・今年度の学校課題「他者との学び合いを通して、課題解決の楽しさを実感できる授業の展開」～各教科の特性を生かした協働的な学び合いの実践～を図るために、児童一人一人がめあてを明確にし、主体的・協働的な学習に取り組めるよう工夫する。 ・「問いかけ」の習慣化により、児童に考えさせる場面を意識的に設定する。 ・学力調査等の結果活用や日常の姿から、児童の実態を把握することで個に応じた指導を心掛け、基礎・基本の習得が必要な場合等において個別の指導体制を整えていく。 ・実際に行っている授業実践の様子や工夫等も学校だよりやホームページで発信していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 95.3%、教職員が 100%、保護者が 90%であった。肯定的回答はいずれも目標を大きく上回っており、昨年度の数値と比較しても上がっている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観やオープンスクールでは、普段の授業を公開する。 ・学校だよりやホームページを通して、学び合いの様子や教科の特性を生かした実践の様子などを発信していく。 ・「知識及び技能に関する総合的な理解」と「思考力、判断力、表現力等の総合的な発達」の往還による深い学びの実現を意識した授業を展開する。

<p>4-(2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の「報・連・相」を徹底し、風通しの良い職場づくりに努める。 ・学校図書館司書, ALT と事前打合せや事後の振返りを共に行う時間を設けることで、より効果的な授業を目指す。 ・かがやきルーム指導員, スクールカウンセラーとの連携を図り、児童理解や効果的な学習法を共に模索していく。 ・職員間での情報交換や OJT を徹底し、深い児童理解や質の高い授業の展開に努めていく。 ・教職員のたて割りのチームを編成し、課題検討や互いに情報交換をするなど、同僚性を高め合う。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は、100%であり、目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・職員間の「報・連・相」を徹底し、学級担任以外の教職員からの児童の情報も進んで共有し、児童理解を深め、チームで問題解決をしていく。 ・教職員の縦割りチームによる活動を活性化し、教材研究に関する情報交換等を積極的に行い、質の高い授業の展開をめざす。 ・かがやきルーム指導担当, スクールカウンセラーとの連携を図り、児童理解や効果的な学習方法を共に模索していく。</p>
<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や児童会行事, 学年行事ごとの反省をもとに、業務の効率化について、できることを教職員間で考え、学校・学年・児童会等の行事を精選したり、より学習効果が効率よく実施できるよう、改善したりする。 ・教職員一人一人が、勤務時間を意識し、計画的に業務を行うとともに、毎週金曜日を「定時退勤日」とし、時間を意識しながら業務を進める。 ・会議や打合せの時間の終了時刻を決めて協議内容を必要最低限に抑えたり、ミライムの掲示板等を利用したりして、時間短縮を図る。 ・さくら連絡網を活用し、保護者に向けた連絡を精選することで、業務の効率化を図る。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は、90.3%であり目標を上回った。昨年度の数値と比較すると6.5ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校, 学年, 児童会等の行事の反省をもとに、行事の精選や内容の見直しを行い、次年度の計画に生かしていく。 ・さくら連絡網等のICT機器を活用し、保護者や地域住民に向けた連絡方法を工夫することで、仕事の効率化を図る。 ・業務の効率化について、できることを教職員間で検討、実践することで、教材研究や児童と向き合う時間の確保に努める。 ・勤務時間を意識できるよう、管理職の声掛けや掲示物などの工夫をする。 ・勤務時間外の電話対応や訪問等について、保護者や地域住民の理解を得られるよう丁寧な説明をしていく。</p>

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の実施</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、児童や教職員の交流、小中一貫教育カリキュラムの作成・見直しなど、小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」「学校は、小学生と中学生の交流の場をつくったり、掲示物で互いの学校の情報を伝え合ったりする小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への乗り入れ授業や児童生徒指導連絡協議会等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。 ・卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。 ・運動会や小中合同あいさつ運動などの行事において、卒業生と本校児童と一緒に活動できる場を増やすなどの工夫をしていく。 ・学校だよりや学校ホームページを通して、保護者や児童に向けて「旭地域学校園」の目標や具体的な取組を周知していく。また、あいさつ運動、ボランティア等の小中合同の取組が行われた際に、3共通信などで周知していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が 89.4%、教職員が 100%、保護者が 81.9%、地域住民が 93.8%であり、目標を上回った。昨年度の数値と比較してもいずれも上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。 ・運動会や小中合同あいさつ運動、宮っこチャレンジなどの行事において、卒業生と本校児童と一緒に活動できる場を増やし、学校だよりや学校ホームページ等で発信していく。 ・中学校教諭の小学校への乗り入れ授業や連絡会議等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。(魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティア、企業等、地域の教育力を生かした教育活動など)」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・築瀬地区の各種団体や魅力ある学校づくり地域協議会等の活動を通して、学校と家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。 ・出前授業や夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れることで、キャリア教育の充実を図る。 ・低・中学年においても土曜授業などの機会に、企業による出前授業や学校支援ボランティアの参画を積極的に取り入れ、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 91.1%、地域住民が 100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き家庭、地域の各種団体や地域協議会等の教育力を生かし、学校と家庭・地域が連携し、教育活動の充実を図る。 ・6学年の総合的な学習の時間における夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れる。 ・他学年においても、企業による出前授業や学校支援ボランティアの参画を積極的に進め、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。(校内の施設、設備、駐車場など)」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による毎月1回の定期環境点検の他、随時異状があった場合には早期発見・早期対応に努める。また、管理職に報告し、危険箇所に対して修繕・撤去等の対策を講じる。 ・長期休みや行事前の特別清掃 PTA 親子奉仕活動・教職員による環境点検等、安全な環境づくりに努める。 ・保護者や地域住民に対して、学校での取組をさらに周知するために、学校だよりや学校ホームページなどを活用していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が 87.9%、地域住民が 93.3%、であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・触れる、叩く、操作するなどの徹底による定期点検や日常の点検を通して、危険箇所の早期発見・早期対応に努め、引き続き安全に配慮した環境づくりを徹底していく。 ・保護者の協力もあり、児童が安全に生活できる環境が整ってきた。引き続き連携を図っていく。 ・引き続き保護者や地域住民に対して学校での取組をさらに周知するために、学校だよりや学校ホームページなどを活用していく。</p>

<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用に関する研修に参加するとともに、研修で得た情報を教職員で共有できるようにする。 ・ICT機器をより効果的に活用できるように、ICT支援員を講師とした研修会や情報主任等を講師とした校内でのミニ研修を計画的に行う。 ・校内のデジタル機器の管理やネットワーク環境の整備を行い、使いやすい職場環境を整える。 	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は、100%であり目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・学年間で声を掛け合い、ICT機器を活用した授業づくりに取り組んでいく。 ・情報担当やICT支援員を中心にミニ研修を行うなど、職場全体でICT機器を取り入れやすい環境を整えていく。 ・ICT機器を活用し、教材をデータ化し、共有できるようにすることで、さらに効果的な指導方法が実践できるよう工夫する。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、代表委員や学級ごとの「心のこもったあいさつ運動」を設定することで、あいさつに対する意識付けを図る。 ・登下校時等校外においても元気に先手あいさつ、語先後礼を教職員が率先して行う。保護者・地域・中学生・旭地域学校園教職員、地域協議会委員などと連携を図り、あいさつ運動を実施する。 ・代表委員会を中心に児童が自主的に取り組むあいさつ運動を展開する。 ・あいさつ運動やあいさつに関する日頃の様子について、懇談会や3共通信、学校ホームページなどで発信していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が85.2%、保護者が80.5%、地域住民が93.8%であり、いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・全職員共通理解のもと、先手あいさつ、語先後礼を教職員が率先して行う。また、児童を認め、褒め、励ましていくことで、先手あいさつの習慣化を図る。 ・児童会を中心に、あいさつ運動を通年でを行い、児童自身があいさつをする大切さや気持ちよさを体感し、地域においてもあいさつの日常化につなげていく。 ・懇談会時に児童の日頃のあいさつの様子について、保護者と共有することで、学校と家庭とが同一歩調で指導していけるようにする。 ・あいさつ運動の実施方法を再検討し、活動の更なる充実を図る。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、登下校での交通ルールなど、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「築瀬小学習のきまり」を活用し、全職員が同一歩調で児童指導ができるよう、共通理解を十分に行う。学習準備・姿勢・鉛筆の持ち方・返事・片付け等、学習を支える技能や態度の徹底指導に努める。 ・基本的生活習慣に関しては「築瀬小よい子の一日」を活用し、学校生活のきまりについて教職員が同一歩調で継続的な支援に努める。 ・学校内外できまりやマナーなどを守るように学校教育活動全体を通して根気強く指導していく。 ・「立腰」に取り組み、落ち着いて学校生活を始められるように努める。 ・はき物揃えを通して生活指導を行い、児童の規範意識の醸成を図る。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、教職員が96.8%、保護者が94.6%、地域住民が100.0%であり、目標を大きく上回った。昨年度の数値と比較してもいずれも上回っている。 【次年度の方針】 ・全職員が同一歩調で児童指導ができるよう、年度初めの共通理解を十分に行う。また、季節や状況に応じて必要があると判断された場合には、その都度、共通理解をする機会を設けていく。 ・基本的生活習慣に関しては、はき物揃えをはじめとして学校内外できまりやマナーなどを守るように学校教育活動全体を通して根気強く指導していく。 ・地域協議会などの機会を通して、地域住民へ学校での取組を発信するとともに、地域の声や意見を聞き、指導に活かせるようにしていく。</p>

	<p>B3 保護者との信頼関係が築かれ、家庭との連携が図られている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、保護者と連絡を密にしながら、指導に当たっている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との信頼関係が保てるよう、課題となる点だけでなく、児童のよい面やよくなったこと、できるようになったこと等を連絡帳や電話・家庭訪問等で保護者に積極的に伝えるよう努める。 ・児童の問題行動等については、迅速な対応のために「報・連・相」の徹底を図るとともに組織的に対応し、家庭と連携しながら解決に当たる。 ・授業参観、保護者懇談会を通して児童の成長や学校生活における問題点や改善点等を話し合うことで連携を深めていく。 	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は、82.8%であり、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童の様子を丁寧に見取り、個人懇談や連絡帳・電話等で保護者と話す際は、よい面やよくなったこと、できるようになったことを積極的に伝えるとともに、課題となる点は、共感的に聞き取り、家庭と連携して児童にかかわれるように努める。 ・家庭との連携に課題が見られる場合は、家庭との「報・連・相」を徹底し、組織的に対応しながら、改善を図るよう努める。</p>
	<p>B4 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「自分の学級は居心地がよいと思う。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を常に意識しながら、お互いの良さを認める機会を意図的に設定するなどして、自己存在感を高めていく学級づくりを工夫する。 ・児童会活動や学級活動の中で、多くの児童が活躍できる場を意図的に設け、お互いの良さを認める機会を設定するなどして、自己存在感を高めていく活動を工夫し行っていく。 ・道徳の授業をはじめ、全教育活動を通して自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動の充実を図る。 ・児童同士の関わりを深め、学校生活においてより良い人間関係を築いていけるよう学校活動の工夫を図る。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、児童が93.3%、保護者が92.9%と、目標を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、児童会活動や学級活動の中で、多くの児童が活躍できる場を意図的に設け、お互いを認める機会を設定する。 ・係活動や当番活動の際には、教師が意図的に自己選択・自己決定できる場の設定を通して、自己存在感を高める学級づくり、学年づくりに努める。 ・道徳に限らず、どの授業においても自分の考えや思いを積極的に表現することで、児童同士の関わりを深め、心理的安全性を確保することで、学校生活においてより良い人間関係を築いていけるようにする。</p>
	<p>B5 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している。」 ⇒ 保護者の肯定的回答率 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや学校ホームページ等により、取組の見える化に向けて、日々学校の様子を発信することで家庭との連携を深めていく。 ・地域協議会を中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ・可能な限り保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域とともにある学校を目指す。 ・学校だよりや3共通信などに学校ホームページに飛びリンクを入れるなど工夫していく。 	<p>【達成状況】 肯定的回答は、保護者が92.2%、地域住民が100%であり、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校だよりや学校ホームページ等において、日々の学校の様子を発信する。 ・地域住民との連携を図り、地域と学校が一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ・授業参観、オープンスクール、諸行事等において、保護者や地域住民へ積極的に学校を公開し、地域とともにある学校を目指す。 ・3共通信などに学校ホームページのリンクを記載するなど、学校の様子を簡単に閲覧できる工夫をする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～20）】

- ・ A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。についての肯定的回答は、児童、教職員、保護者いずれも90%を上回り、昨年度の数値と比較しても上回っている。学校課題である「他者との学び合いを通して、課題解決の楽しさを実感できる授業の展開」のもと学校全体で授業改善・個別最適な学習の展開を意識して取り組んだことが成果に繋がったと考えられる。
- ・ A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。B4 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。いずれの項目についても肯定的回答はすべて目標を上回っていることから、学校全体で教職員が児童の思いに寄り添いながら伴走し、「存在を認め、努力を褒め、挑戦を励ます」意識したことが成果に繋がったと考えられる。
- ・ A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。についての肯定的回答は、児童、教職員、保護者いずれも目標を大きく上回った。各学級での保護者との密な連携、学校全体での組織的な未然防止のための取組を積極的に行ったことが成果に繋がったと考えられる。
- A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。についての肯定的回答は、児童、教職員、保護者、地域住民、いずれも目標を上回り、昨年度の数値と比較しても上回った。中学校からの乗り入れ授業や、小中合同あいさつ運動、運動会や霜月祭での中学生によるボランティア活動を通して、小学校の児童と中学校の生徒の交流の場が広がったことで、小中一貫教育の充実が図られたと考えられる。
- ・ A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。についての肯定的回答は、保護者、地域住民いずれも、目標を上回った。学校が地域の教育力の活用や各企業や団体等との連携を図り、それぞれの強みや特徴を生かした学校教育活動を展開することができた。また、地域住民や保護者の積極的な協力を得られたことも成果に繋がったと考えられる。

【目指す学校の姿（評価項目：B1～5）】

- ・ B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。についての肯定的回答は、児童、保護者、地域住民のいずれも目標を上回った。校内でのあいさつ運動の取組の工夫や築瀬小学校のきまりをもとに、全職員が共通理解を図ったうえで指導したことが成果に繋がったと考えられる。
- ・ A2 児童は、思いやりの心をもっている。A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。については、いずれも目標を上回ったが、昨年度と比べ児童の肯定的回答率は下回った。児童同士の認め合いを推進できるような場や機会をさらに工夫していく。また、教師からの称賛や褒め言葉を意識した指導していくことを全職員で推進していく。安全指導の充実を図り、安全に生活するためにどのようにしたらよいかを児童自身に考えさせる場面を多くもつようにする。
- ・ A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。についての保護者の肯定的回答はいずれも昨年度の数値と比較すると上回っているものの、目標を下回っている。宇都宮市の魅力や歴史について学ぶ「宇都宮学」をはじめ、宇都宮市について学習する活動の様子をより一層の周知していくようにする。また、1人1台端末の効果的な活用方法や情報リテラシー教育の充実を図り、安全・安心なICT機器の活用ができるよう努めていく。いじめ問題については、未然防止、早期発見・早期解決を目指し、学校と家庭が密に連携を図るとともに、全教職員がいじめのない環境づくりの意識化を図るとともに「見逃さない、許さない」という姿勢で指導していく。

7 学校関係者評価

- ・ 朝の登校時のあいさつがよくできていないが、低学年の児童は下校時にはあいさつが返ってくる人が多い。
- ・ 宇都宮学が分かりにくいので、できれば副読本を見せていただきたい。また、学習の中で築瀬地区のことも学習する機会があるとよい。
- ・ SNSが最近問題となっているため、小さいときから学校や家庭で正しい使い方を指導していくことが大切である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 児童一人一人自己肯定感と自己有用感の高揚を図るため、引き続き学校全体で教職員が児童の思いに寄り添いながら伴走し、引き続き「存在を認め、努力を褒め、挑戦を励ます」指導を推進していく。
- ・ 学校経営に積極的に参画できる教職員を育てることを通して、「チーム築瀬」のもと教職員の組織力を高め、活気のある学校、信頼される学校づくりの推進に努める。
- ・ 保護者や地域住民の声を大切にし、学校・保護者・地域住民の信頼関係の構築をより一層図っていく。また、学校教育

活動の具体的な取組や成果を積極的に発信し、保護者や地域住民との連携を密にして積極的な教育活動への協力を求めていく。

- ・学校行事や地域学校園での取組の見直しについては、PDCA サイクルや家庭や地域の声を活かしながら検討を加えていく。

【学習指導】

- ・児童の学力、学習意欲の向上のため、宇都宮市授業力向上スローガン「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する。また、児童の主体的、協働的な学習を意識した授業づくりを継続し、児童同士が対話を通して互いに学び合い、考えを深められるような授業展開を工夫する。
- ・児童一人一人に応じた、きめ細かな指導の充実を図るため、校内研修をはじめとした研鑽の機会をさらに充実し、教職員の授業力の向上に努める。
- ・地域の豊かな教育資源の活用や、地域住民との交流を取り入れた体験的な授業を積極的に取り入れる。また、これらの活動を通して、地域のよさや宇都宮のよさについて理解を深めていく。

【児童生徒指導】

- ・「築瀬小よい子の一日」を全教職員が共通理解し、同一の指導を行うとともに、継続して児童にルールを守ることの大切さを指導し、規範意識の醸成を図っていく。
- ・全職員が日常的に児童の様子を注意深く観察し、小さな SOS も見逃さぬよういったん大きく捉えて、報告・連絡・相談を徹底する。学級や学年はもとより、学校全体での組織的な支援や指導を通していじめや不登校の未然防止に努める。
- ・児童会を中心としたあいさつ運動など、児童が主体的にあいさつできるような指導をさらに工夫する。また、中学校との連携や保護者、地域住民と連携したあいさつ運動など推進していく。
- ・児童同士がお互いのよさを認め合う活動や機会を設定する。児童が認められることの喜びや、誰かの役に立つ喜びを実感できることを通して、自己肯定感や自己有用感を高められるようにする。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・児童が健康な生活が送れるよう引き続き、保健指導の充実を図るとともに、家庭との連携を推進していく。
- ・交通ルールやマナーを守る態度の向上については、教職員から児童への日々の声掛けや、家庭や地域住民の協力を得ながら粘り強く取り組んでいく。
- ・学校給食を通して、日常の食事に興味・関心を持ち、マナーを守り楽しく食事をすることが心身の健康につながることを継続して指導する。また、SDGs への意識の高揚を図る。
- ・児童の体力向上、運動の日常化に向け、児童が自ら体を動かしたくなるイベントの企画や運動の紹介を行う。また、自分の取組や伸びが分かる運動カード等の活用を継続的に行っていく。

全体としては、肯定的回答の目標値を上回っている項目が多いが、昨年度と比較した際に児童の肯定的回答率が下回っている項目が多くみられた。学年や児童の実態も違っているため、一概に昨年度と比較することは難しいが、児童が回答した背景や理由を考察し、引き続き「存在を認める、努力を褒める、挑戦を励ます」指導を推進し、児童の自己肯定感の更なる高揚を図っていく。